2010年度 入試概要分析

2010年度入試の概要がこの夏にほぼ出揃った。本誌では受験環境の変化や来春入試の主な変更点をまとめるとともに、8月に実施された第2回全統マーク模試の志望動向もあわせてお伝えしたい。

◆大学志願者数は微増の見込み

来春の入試概要を見る前に、8月に文部科学省より公表された「平成21年度　学校基本調査速報」から、今春入試の受験動向について振り返っておきたい【表1】。新規の高卒者数は約106万5千人で前年を約2万4千人下回り、大学の志願者数は約66万9千人で前年から1,644人減となった。一方、新規高卒者の大学への志願率は54.9％で前年から1.4ポイントアップし、大学志願率の上昇は続いている。

減少が続いていた18歳人口だが、2010年度入試では約2,500人増加する。また、高卒者のうち大学を志願する者の割合は今後も上昇していくことが予想される。河合塾では、これらを見込んで大学への志願者数は今春入試から約2,200人増の67万1千人程度と想定しており、今春よりはやや厳しい入試となることが予想される。

では、このような環境下で行われる2010年度入試の概要を国公立大、私立大の順に見ていこう。

【表1】高校卒業者数と大学志願者数・入学者数の推移

年度	18歳人口	新高卒者数	大学志願者数	大学入学者数	大学への入学率
1998	1,622,198	1,441,061	790,423	581,705	73.6%
1999	1,545,270	1,362,682	756,422	579,420	76.6%
2000	1,510,994	1,328,940	745,199	587,142	78.8%
2001	1,511,845	1,327,109	750,324	588,871	78.5%
2002	1,502,711	1,315,079	756,333	590,845	78.1%
2003	1,464,760	1,281,656	742,934	586,749	79.0%
2004	1,410,403	1,235,482	722,219	580,456	80.4%
2005	1,365,471	1,203,251	699,732	586,296	83.8%
2006	1,325,208	1,172,087	690,615	587,512	85.1%
2007	1,298,718	1,148,108	689,673	597,219	86.6%
2008	1,236,363	1,089,188	670,371	589,552	87.9%
2009	1,211,242	1,065,158	668,727	589,941	88.2%
2010	1,213,709	1,062,473	670,925	591,193	88.1%

※文部科学省学校基本調査より作成（2009年度は速報値、2010年度は一部推定）
※新高卒者数･志願者数は中等教育学校を含む
※志願者数は頭数で過年度卒業生を含む
※入学者数は過年度卒業生を含み、外国の学校卒、検定等を除く
※入学率は入学者数／志願者数

国公立大学編

◆後期日程の募集人員は377人減少

【表2】は昨年と今年の国公立大の募集人員を日程・選抜別に比較したものである。国公立大全体の募集人員は前期日程で77,916人（＋210人）、後期日程で19,938人（－377人）となっている。国立大学協会が2006年度入試から条件付きで後期日程の募集を取り止めることを認めて以来、**京都大**や**名古屋大**など旧帝大をはじめとした難関大を中心に多くの国立大が後期日程を廃止・縮小し、募集人員を前期日程やAO・推薦入試に振り替えてきた。この動きは5年目を迎えて落ち着いてきているものの、来春も引き続き後期日程を廃止する大学がある。

【表3】は後期廃止の学部（学科）をまとめたものである。**広島大**は教育・理・医・歯学部の一部学科で後期日程を廃止する。このほか、**札幌医科大**（保健医療）、**筑波大**（人文・文化－日本語・日本文化）、**信州大**（工－機械システム工・電気電子工・土木工・物質工）などで後期日程を廃止するが、影響は局地的なものとなりそうだ。また、医学科では**和歌山県立医科大**、**大分大**の2大学で後期日程が廃止される。

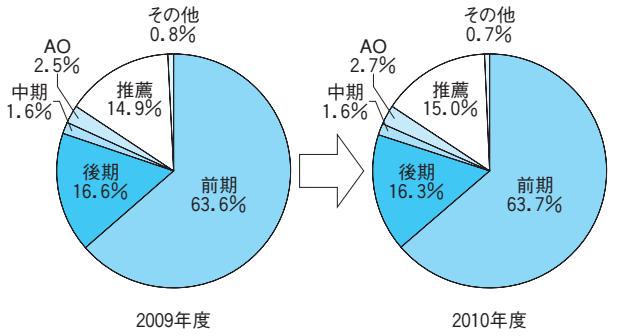
一方、「新たに後期日程を実施する」「募集人員を前期から後期にシフトする」といった動きも見られる。後期日程を新たに実施するのは、**埼玉大**（教育－学校－美術）、**東京学芸大**（教育－特別支援教育・中等－国語）、**静岡大**（教育－特別支援教育）、**沖縄県立芸術大**（音楽－声楽）。また、**岐阜大**（工）では、募集人員69名分を前期日程から後期日程に移し、前期：297名、後期：126名となる。このほか、**千葉大**（理－物理）、**大阪教育大**（教育）、**島根大**（総合理工－物質科学）などで後期への募集人員シフトがみられる。

◆AO入試実施大は67大学173学部に

後期日程廃止と連動した動きとなっているのがAO入試の拡大である。

2000年にスタートした国公立大のAO入試は、2010年度入

【表2】国公立大募集人員の変化



2009年度　　2010年度

	国立				公立				国公立全体			
	08年度	09年度	10年度	差(10−09)	08年度	09年度	10年度	差(10−09)	08年度	09年度	10年度	差(10−09)
前期	63,627	63,848	63,931	83	13,524	13,858	13,985	127	77,151	77,706	77,916	210
後期	17,400	16,983	16,550	−433	3,361	3,332	3,388	56	20,761	20,315	19,938	−377
中期					1,899	1,915	1,901	−14	1,899	1,915	1,901	−14
AO	2,468	2,654	2,854	200	402	441	452	11	2,870	3,095	3,306	211
推薦	11,665	11,950	12,079	129	5,632	6,192	6,289	97	17,297	18,142	18,368	226
その他	708	739	644	−95	409	228	211	−17	1,117	967	855	−112

※文部科学省資料より
※上記の数は7月末現在の募集人員であり、予定のものを含んでいる
※その他は、社会人選抜、帰国子女選抜などが含まれる

試では前年度より3大学増の67大学173学部で実施される。

大学として新たにAO入試を導入するのは、**群馬大**（工－応用化学・生物化学）、**電気通信大**（情報理工（夜））、**東京農工大**（農－環境資源科学）。実施学部・学科を増やすのは後期日程を廃止する**広島大**（歯－口腔保健）、**愛媛大**（教育－特別支援教育）、**大分大**（医－医）のほか**都留文科大**（文－英文）、**島根大**（教育－学校教育課程Ⅰ類）などがある。

東京農工大（農－環境資源科学）のAO入試はゼミナール入試で、2回のゼミナールとセンター試験（3教科5科目）の成績で合否を決定する。**島根大**（教育－学校教育課程Ⅰ類）は文系型20名と理系型12名に分けて募集し、それぞれ「面接・課題表示による作業」とセンター試験（3教科3科目）を課す。**大分大**（医－医）は募集人員30名で、うち5名は地域枠として募集する。

AO入試においては大学の求める人材の獲得を狙ってバリエーションも拡大している。**群馬大**（工－応用化学・生物化学）が新たに実施するAO入試は理数学生特別入試で、理数分野での実績や能力をアピールできる者が対象となる。スーパーサイエンスハイスクール（SSH）およびサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）、高大連携プログラムなどへの参加記録や、化学・生物学・物理オリンピックなどでの入賞経歴等が出願条件となっている。

AO入試は学力試験が課されないことが多く、一部で入学者の学力不足などが問題となっている。すでにAO入試を実施している大学では新たにセンター試験を課す動きも出ている。**広島大**は教育学部（科学－技術・情報系・社会系、人間－教育学系）のAO入試を、センタを課さないⅠ型からセンタを課すⅡ型に変更する。新たに実施する歯学部口腔保健学科のAO入試もセンタを課す方式だ。そのほか、**東北大**（法）もセンタを課さないⅡ期からセンタを課すⅢ期に変更する。また、AO入試そのものを取り止める大学も出てきており、**九州大**（法）は2010年度入試からAO入試を廃止する。文部科学省は今年3月に発表した「平成23年度入学者選抜要項の変更予定について」のなかで、AO入試については入学願書の受付を8月1日以降にすること、AO入試と推薦入試において基礎学力の把握

【表3】後期日程を廃止する大学

大学名	学部(学科)
札幌医科	保健医療(全学科)
山形	医(看護)
筑波	人文・文化学群(日本語・日本文化学類)
東京学芸	教育(環境−環境教育、芸術−表現コミュニケーション)
金沢	医薬保健学域(保健−作業療法学)
信州	工(機械システム工、電気電子工、土木工、物質工)
和歌山県立医科	医(医)
島根	教育(学校教育Ⅱ類−美術)
広島	教育(言語文化教育)、理(生物科学)、医(保健)、歯(口腔保健科学)
山口	教育(実践−人間教育学)
愛媛	教育(特別支援教育)
大分	医(医)
宮崎	教育文化(学校−中学英語)
鹿児島	教育(学校−社会)

を徹底することなどを示した。今後もセンター試験の必須化や方式自体の見直しといった動きは広がりそうだ。

◆医学科の定員増と地域枠推薦入試の拡大

文部科学省は7月に、2010年度の医学科入学定員の増員計画を発表した。これは「経済財政改革の基本方針（骨太の方針）2009」において「医師等人材確保対策を講ずる」ことが盛り込まれたのを受けたもので、今年度の医学科定員から最大369名の増員が計画されている。

医師不足が問題化したことを受け、政府は2006年に「新医師確保総合対策」を、2007年に「緊急医師確保対策」を相次いで発表し、地域・期間の限定付きながら医学科入学定員増を認めた。この結果、2008年度入試では医学科の入学定員は168名の増員となった。

2009年度も引き続き「緊急医師確保対策」による入学定員増が計画されていたが、医師不足解消には不十分とし、政府は「経済財政改革の基本方針（骨太の方針）2008」のなかで医学科定員を「早急に過去最大程度まで増員する」とした。これらを受けて、2009年度入試では医学科定員は77大学693名の大幅増となり、過去最多の8,486名となった。

今回文部科学省から新たに発表された増員計画は、地域の医師確保の観点から以下の3つの枠組みで計画されている。これら全てが実現すれば医学科入学定員は8,855人となる。

① 地域の医師確保の観点からの定員増（最大329名）
② 研究医養成のための定員増（最大10名）
③ 歯学部入学定員の削減を行う大学の特例（最大30名）

それぞれ、増員期間は2019年度までの10年間とし、以降の取扱いは、その時点の状況を踏まえて判断するとしている。定員増を行う大学は10月末までに申請することになっている。各大学の増員予定数、具体的な選抜方法等は現段階では明らかにされていないので、今後の大学からの発表に注意したい。

こうした「医学部の入学定員増」の流れは医師不足が深刻な地域や診療科の医師確保を目的とするもので、入試制度面では、出身地や卒業後の勤務地に制限がある入試が近年急速に拡大している。2009年度は1年次入学定員の12.1％にあたる616名がこうした地域枠に割り振られた。2010年度入試では、現時点で**長崎大**、**奈良県立医科大**が推薦入試で、**大分大**がAO入試で、**大阪市立大**が前期入試で新たに地域枠入試を実施することが判明している。また、既存の地域枠入試の募集人員を増やす大学も多く、**富山大**（推薦：8→15名）、**広島大**

（推薦：5→10名）、**山口大**（推薦：10→15名）等の大学で増員が予定されている。現時点で判明している医学科の定員については、一覧をP28にまとめたのでご参照いただきたい。

医学科については医師を取り巻く環境が大きく変化しているうえ、「後期日程の廃止」「地域枠推薦の導入」など入試制度面でも変更点が多い。志望者にはしっかりと状況を把握させておきたい。

◆入試方式に大きな変更はなし

続いて入試科目や選抜方法の主な変更点をまとめる。後期日程の廃止や科目負担の軽減など、ここ数年と同様の傾向はみられるが、全体的には目立った入試変更の少ない落ち着いた動きとなっている。

①選抜方法を大きく変更する大学（広島大・岐阜大）

複数学科で後期日程を廃止する**広島大**では、医学部医学科の前期日程で判定方法を変更する。これまで2次試験は英語・数学・理科の均等配点だったが、2010年度入試では理科重視のA配点と均等配点のB配点の2つの判定基準で合否を決定する。まずA配点で募集人員の半分の合格者を決定し、B配点で残り半分の合格者を決定するため、理科が得意な受験生にはチャンスが広がることになる。そのほか、理－地球惑星システム（後）は2次試験を小論文から面接に変更、医－保健－作業療法学（前）、歯－口腔保健科学（前）では2次試験で新たに面接を課す。

募集人員を増やす**岐阜大**工学部の後期日程では、入試科目にも変更がある。センター試験は5教科7科目から5教科5科目に科目数を減らし、数学・理科がそれぞれ2科目から1科目になる。一方、これまで実施していなかった2次試験を新たに実施する。数学と理科の2教科2科目で判定する。

②センター試験の教科・科目数の増減

2004年度にはじまり徐々に実施大を拡大してきた国立大のセンター試験7科目化はほぼ定着し、来春入試で新たに7科目化する国立大学はない。公立大では**京都府立大**（生命環境－食保健－前）が7科目となる。

一方、7科目から科目数を削減する大学がある。**東京学芸大**は実技系の一部専攻で5教科5科目または3教科3科目とする。**岐阜大**（工）は5教科5科目、**京都教育大**（教育－学校－音楽）は5教科6科目、**鹿児島大**（医－保健－作業療法学）は5教科6科目となる。公立大でも、**滋賀県立大**（環境科学－生物資源管理－後）が5教科5科目となる。

この結果、来春入試で7科目を課す募集人員の割合は、国立は前年から0.3ポイント減の86.5%、公立は0.2ポイント増の27.7%となっている。安定した人気を集める難関大とは対照的に、地方大では都市部の私立大との競合により入試科目の設定を見直す大学も出てきている。今後も科目数削減に踏み切る大学の増加が予想される。

③医学科の理科3科目必須大

2006年度入試より拡大している医学科の理科3科目必須化だが、**京都府立医科大**、**岡山大**、**徳島大**では3科目からかつての2科目（物・化・生から2）に減らす。一方、**長崎大**では新たに理科3科目が課され、センター試験の物・化・生が必須となる。理科3科目必須大は**旭川医科大**、**北海道大**、**京都大**、**九州大**、**佐賀大**、**長崎大**、**大阪市立大**、**奈良県立医科大**の8大学となる（北海道大はセンター試験と2次試験あわせて3科目）。

④センター試験の科目変更

前述のほか、センター試験科目の変更で影響が大きそうなものを列挙する。なお、詳細はP38「2010年度入試変更点一覧」をご覧いただきたい。

山形大（地域教育文化－文化－造形芸術－前）：4(5)教科6科目→4教科4科目
筑波大（人間学群－心理学類－前）：数学1→2科目
東京芸術大（美術－建築－前）：4教科4科目→5教科6科目
富山大（工－生命工－後）：理科1→2科目、国語減
大分県立看護科学大（看護－前）：数学1→2科目　など

⑤2次試験の科目変更

2次試験科目の変更で、影響が大きそうなものを列挙する。

●英語リスニング試験の廃止
秋田大（教育文化－地域科学・国際言語文化－前）

●教科数・科目数増
旭川医科大（医－医－前）：理科→英語・数学
岐阜大（工－後）：2次試験を課す（数・理）
大阪府立大（総合リハビリテーション－前）：英語増
愛媛大（医－医－前）：英語増
九州歯科大（歯－歯－前）：英語・面接増
長崎大（医－医－前）：理科1→2科目
熊本大（医－医－前）：理科1→2科目
鹿児島大（歯－歯－前）：理科増　　など

●教科数・科目数減
筑波大（医学群－看護学類－前）：小論文減
金沢大（人間社会学域－学校教育－前）：3→2教科
福井県立大（経済以外－後）：小論文減
兵庫県立大（環境人間－環境人間－後）：2次試験の廃止
岡山県立大（保健福祉－栄養－後）：2次試験の廃止
県立広島大（生命環境－前・後）：数学のⅢ・Cが除外される、理科2→1科目
香川大（工－前）：2→1教科
熊本大（教育（実技系以外）－前）：3→2教科　　など

●その他
旭川医科大（医－医－後）：英語・数学→総合問題
宇都宮大（教育－学校（文系・特別支援教育）・総合人間形成－前）：小論文→学科試験
信州大（経済－前）：国語が必須から英語・数学との選択になる
（理－化学－後）：学科試験→小論文
兵庫教育大（学校教育－後）：センター成績・実技→口頭試問
広島市立大（芸術－美術－日本画－前）：1次・2次で実施→1回で実施
九州大（工－建築－後）：実技→数学　　など

⑥2段階選抜実施大学の変化

2段階選抜の実施を予告している大学は、55大学160学部。

2段階選抜を取り止めるのは、**名古屋市立大**（芸術工－前・後）。一方、新たに2段階選抜の実施を予告している大学は、**大阪大**（外国語－前・後）、**山口大**（医－医－後）がある。また、数大学で予告実施倍率を変更しており、その多くが医学科での変更となる。**愛媛大**、**大分大**などで倍率を引き下げるほか、**名古屋大**、**京都大**は第1段階選抜の条件にセンター試験の得点が加わるため注意が必要だ。

⑦日程の変更・募集区分の変更

東京芸術大（美術）は、これまで募集を後期日程のみで行っていたが、前期日程での実施に変更となる。一方、**愛知県立芸術大**（美術）は反対に前期日程から後期日程での実施に変更となる。この2大学は併願する受験者が多いが、日程は逆になるものの引き続き併願が可能だ。なお、愛知県立芸術大は音楽学部も後期日程のみでの実施のため、全学で後期日程のみの募集となる。

2009年春に公立化した**高知工科大**は、2010年度入試より前期日程と後期日程の分離・分割方式での実施となる。前期日程はセンター試験の科目数によりA、Bの2方式で実施する。

このほか、既存の日程や募集区分を変更する大学は下記の通り。

宇都宮大（教育－学校教育教員養成課程）：人文系・社会系・自然系・実技系→文系・理系・実技系・特別支援教育コース

琉球大（教育－学校－教育実践学－前）：A群・B群→一方式で実施

◆大学の新設、学部・学科の新設・改組

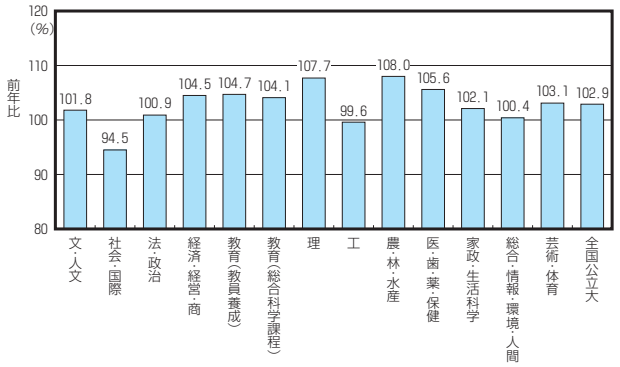
次に新増設や改組・再編の動きについてまとめておく。ここ数年国公立大でも新増設が相次いでいたが、2010年度は落ち着きをみせている。

①大学の新設

2010年度に新設予定の公立大は**新見公立大**の1大学のみ。新見公立短大の看護学科を4年制化して新設する。なお、同短大の他の2学科（幼児教育学科、地域福祉学科）は短大として存続する。

また、公設民営の私立大として運営されている**静岡文化芸術大**が2010年度より公立大学法人化を予定している。

【グラフ5】国公立大（前期日程）　学部系統別の志望動向（第2回全統マーク模試より）



②学部の新設

電気通信大は電気通信学部を改組して情報理工学部を新設する。夜間主コースはAO入試のみでの募集となるため注意したい。公立大では、**高知女子大**が健康栄養学部を新設する。生活科学部の健康栄養学科を学部に改組するもので、生活デザイン学科と環境理学科は募集停止となる。

③学科の新設・改組

学科の新設では**九州歯科大**（歯－口腔保健）がある。また、**山形大**（工・農）、**新潟大**（人文）、**宮崎大**（農）で学科の改組が行われるほか、**大阪教育大**では小学校教員養成課程と中学校教員養成課程を改組して学校教育教員養成課程に再編する。志望者には注意させたい。

◆第2回全統マーク模試からみた志望動向

最後に、この夏に行われた第2回全統マーク模試のデータをふまえ、来春入試の動向を占ってみよう。

第2回全統マーク模試における国公立大全体（前期日程）の志望者数は前年比102.9％と増加した。受験人口の増加により模試の受験者数全体が101.9％と増加したことをかんがみても、堅調な人気だといえる。また、日程の廃止や縮小によりここ数年志望者が減少していた後期日程も前年比103.2％と増加。2010年度入試では目立った大学での後期日程廃止・縮小がないことから志望者数も落ち着きをみせている。今春入試では前期日程出願者に対する後期出願者の割合は80.0％で、

【表4】難関国立12大の志望動向（第2回全統マーク模試より）

大学名	前期日程			後期日程			全日程計		
	08年度	09年度	前年比	08年度	09年度	前年比	08年度	09年度	前年比
北海道	5,438	5,510	101.3%	2,330	2,290	98.3%	7,768	7,800	100.4%
東北	6,184	6,584	106.5%	645	688	106.7%	6,829	7,272	106.5%
東京	7,126	7,050	98.9%	1,216	1,136	93.4%	8,342	8,186	98.1%
東京医科歯科	596	615	103.2%	173	159	91.9%	769	774	100.7%
東京工業	2,236	2,122	94.9%	597	546	91.5%	2,833	2,668	94.2%
一橋	3,155	3,115	98.7%	980	1,045	106.6%	4,135	4,160	100.6%
名古屋	8,437	8,889	105.4%	3	77	2566.7%	8,437	8,966	106.3%
京都	5,908	6,473	109.6%	－	－	－	5,908	6,473	109.6%
大阪	8,296	8,514	102.6%	3,385	3,464	102.3%	11,681	11,978	102.5%
神戸	9,050	9,351	103.3%	3,258	3,165	97.1%	12,308	12,516	101.7%
広島	6,019	6,215	103.3%	2,263	2,143	94.7%	8,282	8,358	100.9%
九州	6,208	6,322	101.8%	1,496	1,513	101.1%	7,704	7,835	101.7%
上記大学計	68,653	70,760	103.1%	16,346	16,226	99.3%	84,999	86,986	102.3%
全国公立大計	230,725	237,451	102.9%	84,394	87,076	103.2%	330,828	340,908	103.0%

※各大学・日程の出願予定者数を集計（単位は人）
※全国公立大計の全日程計の数には中期日程・別日程を含む

後期廃止が本格化する前の06年が86.6%であったのに比べ大きく低下している。来春入試も最終的に後期の出願を止める者の割合は増加することが予想される。

【表4】は難関12大学について志望者数の昨今を比較したものである。難関12大学全体は前期日程計で前年比103.1%と国公立大全体の前年比を上回っており、人気は安定している。**東北大**（前年比106.5%）、**京都大**（同109.6%）など、大幅に志望者を増やした大学もある。反対に減少が大きいのは**東京工業大**（同94.9%）で、特に第4類（同88.6%）、第6類（同89.1%）での落ち込みが目立つ。不景気による製造業の不振からか、工学系の機械系分野での受験生離れが影響しているとみられる。

後期日程の志望者数は前年比99.3%と国公立大全体の前年比を下回ったが、これは**広島大**の後期縮小によるものといえる。大学別の状況をみると、**東北大**（前年比106.7%）、**一橋大**（同106.6%）で志望者の増加が目立つ。特に**一橋大**は成績上位者層も増加しており、注意が必要だ。

【表5】は学部系統別の動向をみたものである。文系では「社会・国際」学系を除き前年を上回り、全体的に堅調に志望者を集めている。ここ数年不人気が続いていた教育系も「教員養成課程」「総合科学課程」ともに増加に転じている。同じく志望者の減少が続いていた「法、政治」学系も前年並みの志望者を集めており、不景気の影響からか資格系や公務員に強い学部の人気が戻ってきている様子がみられる。一方、同じ資格系でも対象的なのが「社会・国際」学系の社会福祉分野で、前年比88.1%と減少に歯止めがかからない。

理系では「理」「農」学系が志望者を増やしている。この2系統は今春入試でも前年を上回る志願者を集めており、人気が続いている。また、昨年不人気だった「医・歯・薬・保健」学系も前年比105.5%と志望者を集めており、ここでも資格系学部の復調がうかがえる。特に「看護」は前年比112.1%と大幅な増加となっている。資格系分野では、「家政・生活科学」系の食物・栄養分野も前年比106.3%と増加が目立つ。

入学定員増で注目される「医」も前年比103.5%と増加している。昨年は定員増の認可時期が遅かったためか志願者の増加にはつながらなかったが、2010年度入試では受験生への周知も進んでおり、志望者が増えている。志望者が増えても門戸は広がっており、定員増がチャンスとなっていることは間違いない。志望者にはあきらめずチャレンジさせたい。

私立大学編

◆私立5大学が募集停止、大学淘汰の時代到来 4年制私立大学の46.5%は定員割れ

今年の4月～6月にかけて相次いで5つの私立大が募集停止を発表した（**三重中京大、愛知新城大谷大、神戸ファッション造形大、聖トマス大、ＬＥＣ東京リーガルマインド大**）。18歳人口の減少により、入学定員を確保できず、厳しい経営状況に陥っていた大学が、募集停止という目に見える形になって現れた結果である。

7月末には、日本私立学校振興・共済事業団が2009年度の私立大の入学志願動向の調査結果を発表した。これによると、今春入試での入学者数が入学定員を下回った定員充足率100%未満の大学は、570校中265校（46.5%）となった。定員充足率が50%に満たない大学は昨年の29校から31校に増加している【グラフ6】。

【グラフ7】は大学の入学定員の規模別に見た定員充足率のグラフである。特に状況が厳しいのが入学定員が300人未満の小規模校で定員充足率は90%に達していない。18歳人口は来年度入試では若干の増加が見込まれているが、今後しばらくは120万人前後で推移する。大学には厳しい状況が続き、来年度以降も学生の募集を停止せざるを得ない大学が出てくる可能性がある。

◆地区別入試変更トピックス

近年の私立大の入試変更をみると、センター利用方式の拡充と、入試科目の軽減が目立つ。来年度入試の変更を地区の主要大学を中心にまとめた。

①北海道・東北地区

2009年度入試では大学や学部でセンター試験利用入試（以下センター方式）を導入した大学が3大学あったこの地区であるが、既にほとんどの大学でセンター方式を実施しているため来年度の新規利用大学はない。しかし、実施回数を増やす大学が増えている。**札幌大、北海道薬科大、東北公益文科大**等は2月後半から3月にかけてのいわゆる二期入試での方式を増やしている。

また、入試科目の軽減や選択科目の増加など受験生がより受けやすくなるよう変更する大学も多い。**藤女子大**では一般入試Ａ日程の総合問題を国語（現代文）に変更、**酪農学園大**ではセンター前期で必須の英語を国語や他教科との選択に変更、一般Ⅰ期でも数学の出題範囲を数ⅡＡから数ⅠＡに範囲変更している。また、**弘前医療福祉大**では一般前期の学科試験を4教科から3教科に減らしている。その中で**日本赤十字秋田看護大**ではセンター方式で3教科から5教科に増やしているので注意が必要である。

②関東（東京除く）・甲信越地区

関東地区では入試方式の拡充がまだまだ盛んに行われている。**流通経済大**では全学部の一般入試3科目型で、Ⅰ期・Ⅱ期の間にもう一日試験日を設けⅢ期までの入試とした。**城西大**でも現代政策・経済・経営の文系学部で試験日程を増設して

いる。**関東学院大**では文・経済学部で前期日程とセンターの併用型、法学部では中期日程とセンターの併用型の入試を導入する。その他に**中央学院大**、**鎌倉女子大**等でセンター試験の新規利用が行われる。

獨協大では一般C方式の試験会場を本学会場のみから、来年度は関東の5都市を加えて実施する。試験会場増設で変わった制度を採る大学も現れた。**秀明大**の学校教師学部では「地元会場」という試験会場を設けた。これは受験生が出願時に申し出ることで受験生の居住するすべての都道府県に入試会場を設置するというユニークなものである。

甲信越地区では一般入試の入試実施回数を減らす大学がある。**新潟産業大**、**帝京科学大**では3回のから2回に縮小した。一方、センター方式は拡大を続けており、**山梨英和大**はセンターⅣ期、**松本歯科大**は2回から3回へと選抜回数を増やす。

③東京地区

東京地区でのトピックスは、**青山学院大**での全学部日程導入が挙げられる。2月7日に全学部で一斉に行われるこの入試は、方式内での併願はできないが受験機会が1回増える。**駒澤大**では全学部統一日程が本学会場のみの実施から、全国6会場（札幌・仙台・東京・新潟・名古屋・福岡）に拡大されるため、多くの志願者を集めそうである。また、**上智大**の文学部では2次試験の小論文やディクテーション等を廃止するため、受験生の負担がかなり軽減される。

一方、センター利用入試に目を向けてみると**立教大**の文・現代心理・異文化コミュニケーション・コミュニティ福祉学部で4教科型、観光学部で3教科型を追加する。**駒澤大**、**大東文化大**では中期、**拓殖大**で第3回など方式を増やす大学が数多くある。

キャンパスの移転も受験生の動きに少なからず影響を与える要因となる。**二松學舍大**の1・2年次生は千葉県の柏キャンパスで2年間を過ごしていたが、来年度から4年間を通して九段キャンパスの利用が可能となった。**東京工科大**では来年度新設の医療保健－看護・臨床工・理学療法・作業療法、デザイン－デザインが東京23区内の蒲田にキャンパスが開設される予定である。東京地区は大学数も多く、様々な変更があるため、その他の大学の情報の詳細はP38「2010年度入試変更点一覧」をご参照いただきたい。

④東海・北陸地区

金城学院大がセンタープラス方式を来年度から実施する。センター試験の2科目と大学独自試験1科目の計3科目で合否が決まる入試だ。多くのセンター併用方式の入試はその大学の既存の一般入試で受験した科目を利用し、センター試験の成績と合わせて合否が決まることが多いが、金城学院大の場合は、センタープラス方式専用の大学独自試験を、既存の一般方式とは別で設けている。このような方式であれば一般入試が上手くいかなかった場合でも、一日試験会場に出向かなければならないが、完全に仕切りなおしをして受験が可能だ。

中京大では記述式の前期B方式を廃止し、M2方式（2教科）を実施する。M方式は全問をマークシート方式で解答する方式で、1日の受験で同じ日に行われるM3方式（3教科）との併願が可能である。また、2009年度入試で一旦廃止したセンタープラス方式を復活させ、実施を続けていた経済・情報理工学部に加え体育以外の全学部で実施する。

⑤近畿地区

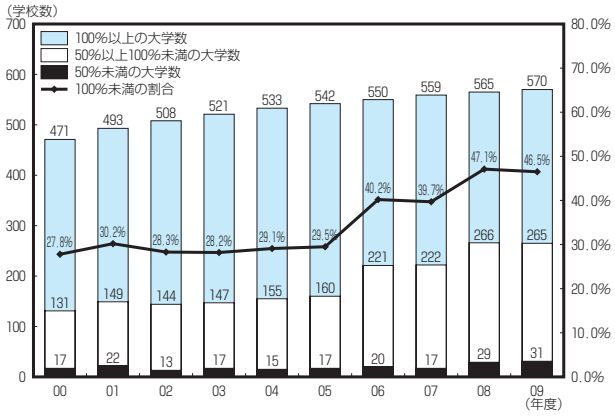
近畿地区は主要な大学で入試方式の大きな変更がある。**立命館大**の一般方式は学部により様々な方式の入試を実施していたが、ＳＡ方式、Ｆ方式、ＭＡ方式、Ｖ方式等を廃止し全学部で同一日に実施する学部Ａ方式を実施する。また、文・産業社会・経営・経済学部ではＷ方式を導入する。学部間での方式の差が少なくなり、かなりシンプルになった。**龍谷大**はセンター前期の出願締切日をセンター試験実施後に設定していたが、来年度からはセンター試験より前に繰り上げた。そのため受験生はセンター試験の自己採点結果を見てから出願することができなくなり、結果にかかわらず出願しておく必要があるので志願者の増加が見込まれる。

関西大では今春新設学部の外国語学部でセンター試験を新たに利用する。また、商学部ではセンター中期、システム理工・環境都市工・化学生命工・総合情報の各学部でセンター後期を実施する。**同志社大**では政策学部でセンター３科目方式を導入、理工－機械システム工・エネルギー機械工、生命医科学部全学科でセンター方式の大学独自試験の面接を廃止するため、志願者を集めそうである。

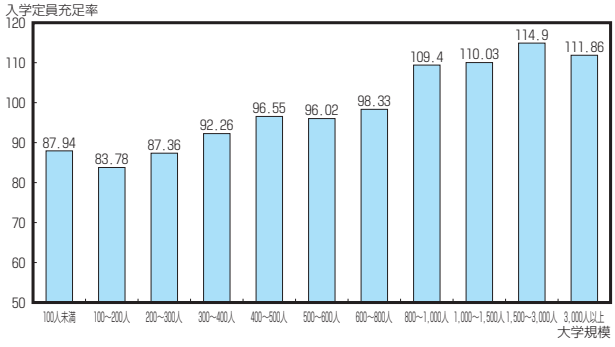
⑥中国・四国地区

受験生の減少を受けて、この地区では学科の募集停止をする大学が他地区に比べ多い。**岡山学院大**（キャリア実践－キャリア実践）、**広島工業大**（環境－地域環境）、**宇部フロンティ**

【グラフ6】私立大　定員割れ学校数の推移



【グラフ7】私立大　入学定員充足率（大学規模別）



ア大（人間社会－児童発達）が募集を停止する。また、**四国学院大**では文学部の言語文化、教育学科を募集停止し人文学科の1学科のみとし、社会福祉学部では子ども福祉学科を、社会学部では応用社会学科を募集停止する。

募集方法の変更は、**福山大**では経済学部を学科ごとの募集から学部一括募集に、**広島工業大**ではＣ日程、センター後期を系別募集から学科ごとの募集に変更する。

入試科目の変更では、**広島国際大**の医療系学部（看護は除く）の一般方式前期Ａ日程で教科数が1教科から2教科に増加、Ｂ日程では数学の範囲が数ⅠＡから数ⅡＢに変更になる。**徳島文理大**の文・保健福祉・総合政策学部ではⅠ期Ａの公民の科目が政経から現代社会に変更される。

⑦九州地区

この地区の主要大学である**西南学院大**では文－外国語－英語、人間科学－児童教育でもセンター併用型入試を実施する。これでセンター併用型入試は神学部を除く全学部学科での導入となった。**福岡大**でも商・工学部、医－看護でセンタープラス型入試を実施する。

立命館アジア太平洋大では入試方式のスクラップアンドビルドが行われる。センター利用方式では併用5教科型、4教科型、3教科型Ｂを廃止、一般方式ではＳＡ方式、Ｆ方式を廃止しＳ方式を新規に実施する。

医療系の学科では**久留米大**の看護学科がセンター方式を新たに実施する。**産業医科大**は環境マネジメント学科の個別試験の面接を廃止する。

◆充実の給費・特待生入試、受験料割引制度

昨年からの急激な景気の悪化をうけて給費・特待生制度を導入する大学はさらに拡大している。河合塾では入試概要が出揃う8月の時点で入学試験による給費･特待生制度を実施する大学を調査しているが、来年度は**立教大**、**杏林大**、**西南学院大**など全国で38校増え、398大学あった。また、実施する学部や対象者を拡大する大学も数多く見られる。

一般入試とは別の日程で行われる給費・特待生入試の多くは一般入試の選考も兼ねており、特待生合格とならなかった場合でも一般入試の合格として扱われる場合があるので、志願者には活用させたい。「給費・特待生・奨学生入試を実施している私立大学」の一覧は河合塾入試情報サイトKei-Net（http://www.keinet.ne.jp/）に掲載しているので、そちらを是非ご参照いただきたい。

そのほか、多くの大学では受験料割引制度をとっている。複数学科や方式を併願すれば受験料が安くなるという制度であるが、この制度を新規に取り入れる大学や割引率を拡大する大学もあり、志望する大学が導入していれば上手く活用していきたい。

◆改組・新増設の動き

来年度の学部や学科の新設・改組はここ数年に比べ若干少なめだ。しかし大学は受験生を獲得しようと受験生・社会のニーズに合った学部・学科の設置に懸命だ。ここでは改組、新増設の動きについてまとめておく。

【表8】私立大　新設大学一覧

都道府県	大学	学部	学科	定員
山形	東北文教 ＊位置：山形県山形市	人間科学	子ども教育	90
埼玉	日本保健医療 ＊位置：埼玉県幸手市	保健医療	看護	100
東京	ヤマザキ学園 ＊位置：東京都渋谷区	動物看護	動物看護	200
神奈川	横浜美術 ＊位置：神奈川県横浜市	美術	美術	190
大阪	大阪物療 ＊位置：大阪府堺市	保健医療	診療放射線技術	100

①新設大学では医療系・教育系の学部を設置

ここ2～3年、10校近くの4年制大学が毎年設置されていたが、来年度は5大学と少ない【表8】。戸板女子短大は2010年4月に大学への改編に向けて設置認可申請をしていたが、2011年4月に変更した。医療､教育系の大学の開設が最近のトレンドとなっており、医療系の大学が**日本保健医療大**（埼玉県）、**大阪物療大**（大阪府）の2大学、教育系の大学は**東北文教大**（山形県）となっている。**ヤマザキ学園大**（東京都）、**横浜美術大**（神奈川県）の2大学は短大から4年制に改編されるもので、ヤマザキ学園大の設置が認可されれば日本で初となる動物看護学部が設置される。

②学部、学科の新設・再編でも医療・教育系が中心

大学の新設と同様に来年度の学部・学科の新設は例年に比べ若干少なめになっている。とはいえ、学部の新設で45大学59学部、学科の新設では51大学83学科もの設置が予定されている（8月末現在、河合塾調べ）。学部・学科の新設でも「医療系」の新設が一番多い。特に中部地区では開設される学科が多く、**順天堂大**（看護・静岡）、**中京学院大**（看護）、**椙山女学院大**（看護）や、**浜松大**（健康鍼灸、健康柔道整復）、**中部大**（理学療法、作業療法）、**名古屋学院大**（理学療法）が設置される。また、大学院大学であった**新潟リハビリテーション大**が新たに学部を開設したり、従来「医療系」とは全く縁の無かった単科大学が参入してきているのにも注目である。「工学系」の**東京工科大**が医療保健学部（看護、臨床工、理学療法、作業療法学科）、「芸術系」の**宝塚大**（宝塚造形芸術大から来年度名称変更予定）が看護学部の設置を予定している。

医療を理学、工学分野からサポートする学科もここ数年増えてきている。バイオテクノロジーや細胞を分子レベルで研究することにより医学や薬学分野に貢献しようという学部である。来年度は近畿地区の**京都産業大**、**大阪工業大**、**近畿大**、**摂南大**の4大学で設置予定である。

文系学部では「教育系」の学部・学科の設置が相変わらず続いている。幼稚園教諭や小学校教諭等の教員免許の取得可能な学部で不況時には人気を集める系統である。来年度は**明治学院大**や**明星大**等で開設される。

③「健康・スポーツ」「栄養」系の学部・学科も目立つ

このほか目につくのは、「健康・スポーツ」「栄養」といった名称の学部･学科だ。**早稲田大**では既存の2学科を廃止しスポーツ科学の1学科へ改組、**立命館大**と**関西大**はそれぞれス

ポーツ健康科学、人間健康学部を新設する。今年度この系統で新設された法政大のスポーツ健康学部は今春入試では3,000人もの志願者を集めている。東西の人気大学での新設・改組だけに人気が集中し厳しい入試となることが予想される。

「栄養」系の学科は女子に人気の資格に直結する学科で、昨年度、今年度は新設が少なかったものの、来年度は7大学で新設を予定している。このうち**盛岡大**、**文教大**は短大の募集を停止し、**聖徳大**、**東京家政学院大**、**京都光華女子大**は既存の学科を改組する。

神奈川工科大では応用バイオ科学部に栄養生命科学科を設置する。管理栄養士の資格取得が可能なことから、女子専用フロアの設置や女子限定のイベント等を実施するなど女子受験生を意識したアピールを積極的に行なっている。

◆第2回全統マーク模試から見た志望動向

最後に、第2回全統マーク模試の結果から私立大の志望動向をみておこう。

本模試の受験者数は前年比101.9%であった。18歳人口が若干増えることと、大学志願率の上昇により来年度入試の大学志願者は今年度並みか若干増加となることが予想される。私立大全体の志望者は前年比100.3%と、国公立大の102.8%より低くなっている。昨年夏以降の急激な景気の悪化により授業料の安い国公立大に受験生の動きがシフトしているようである。方式別では、一般方式が前年比100.7%、センター方式が99.1%と昨年鈍化したセンター方式の志望者数増加の伸びが完全に止まった。

【表9】は一般方式の志望動向を大学の難度別にみたものであるが、偏差値帯57.5以上の難関大学での志望者が減少している。都市部の難関大志向は今春入試で沈静化の動きが見られたが、来年度入試でもこの傾向は変わらないようである。不況の影響で都市部の難関私大を目指す動きが弱まっている。

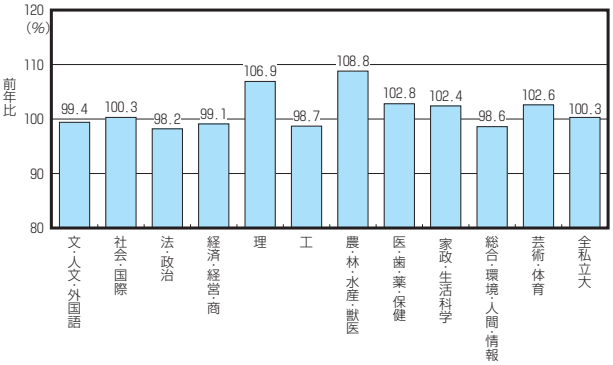
【グラフ10】は学部系統別の志望動向をみたものであるが、「医・歯・薬・保健」学系の人気が回復を見せている。系統内の詳細を見てみると、「歯」「薬」の人気は相変わらず低調

【表9】私立大　難度別の志望動向（第2回全統マーク模試より）

ボーダー偏差値帯	志望者数		前年比
	08年度	09年度	
72.5～	8,518	8,267	97.1%
70.0～	26,199	25,887	98.8%
67.5～	24,058	23,373	97.2%
65.0～	44,810	43,542	97.2%
62.5～	64,213	62,431	97.2%
60.0～	98,880	98,646	99.8%
57.5～	97,832	95,171	97.3%
55.0～	83,189	84,931	102.1%
52.5～	107,432	110,243	102.6%
50.0～	88,579	89,892	101.5%
47.5～	83,413	83,439	100.0%
45.0～	61,869	65,625	106.1%
42.5～	47,304	48,992	103.6%
40.0～	35,673	38,182	107.0%
37.5～	37,947	38,781	102.2%
35.0～	57,312	57,503	100.3%
ＢＦ	29,384	29,250	99.5%
ボーダーなし	2,574	2,287	88.9%
全私立大	999,186	1,006,442	100.7%

※ボーダー偏差値帯は前年実態ベース（無いものは予想難度を使用）
※集計は一般方式のみ集計

【グラフ10】私立大 学部系統別の志望動向
（第2回全統マーク模試より）



であるが、「医療技術」が増加に転じ前年比102.8%、「看護」が118.3%と大幅に志望者を集めている。「医」も堅調に志望者を集めており前年比104.3%という状況だ。

「理」学系、「農」学系も今春入試と同様に人気系統になっている。「理」学系内の詳細はどの系統も前年比が100%を越え、安定した人気を保っている。「農」学系では「獣医」が前年比87.8%と志望者を減らしているが、「生物生産・応用生命」115.0%、「酪農・畜産」123.0%と生命系の学科が非常に高い人気である。

来春入試の動向は、次回模試の動向を踏まえて、本誌12月号でさらに詳細をご報告したい。